

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスWINGつつじヶ丘		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 3日		～ 令和7年3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な支援体制の充実 専門知識や経験を持つ職員を配置し、個別の支援計画を作成・実施することで、児童一人ひとりのニーズに応じた適切な支援を提供しています。	児童発達支援管理責任者、理学療法士、などの専門職と連携し、多角的な支援を提供している。 同法人の事業所との情報交換を実施し、支援の質向上を図る。	職員の専門性向上のための継続的な研修実施 職員の資質向上を目的として、定期的な研修や勉強会を開催します。これにより、最新の支援技術や知識を習得し、質の高いサービス提供が可能になるように取り組む。
2	個別支援計画に基づく療育の充実 事業所では、お子様一人ひとりの特性やニーズを考慮した個別支援計画を策定し、それに基づいて療育を実施しています。この取り組みは、お子様の成長や発達に寄与し、支援の質を高めるために不可欠な要素となっています。	各児童の特性やニーズに応じた個別支援計画を作成し、それに基づいた療育を行っています。これにより、一人ひとりに適した支援を提供し、児童の発達や成長をサポートしています。	さまざまな療育方法を積極的に取り入れ、お子様に合った方法を選択して支援しています。また、スタッフはそれぞれの方法に関する研修を受け、専門的な知識と技術を向上させていきます。ケース会議を定期開催し、支援方法の改善点を職員間で共有をしていきます。
3	保護者様との連携強化 保護者様との定期的な面談を通じて、家庭での状況やお子様の変化を把握し、個別支援計画に反映させることに力を入れています。さらに、療育計画についてのフィードバックを保護者様から受け、その意見をサービス提供に活かす体制を整えています。	保護者様との連携を深めるため、連絡帳や送迎時のフィードバックを活用し、情報共有を積極的に行っています。これにより、家庭と事業所が一体となって児童の支援に取り組む体制を整えています。	保護者様との定期的な面談を実施し、お子様の療育の進捗や家庭での状況を共有していきます。また、面談時には、支援計画や目標の進捗状況を説明し、保護者の意見や希望を取り入れるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や外部との連携不足	地域社会や他の関連機関との関係性が十分に築かれておらず、外部とのつながりが希薄である。	地域のイベントや活動に積極的に参加し、他の子どもたちや地域住民との交流を促進します。これにより、子どもたちの社会性の向上や地域社会との連携強化が期待できます。
2	活動スペースの制約	建物の構造上、広い活動スペースの確保が難しい。 療育活動や運動スペース、個別支援の場を十分に分けることが困難。	人員を確保し、使用できる部屋の拡大を図ることも検討します。公共施設や地域のコミュニティセンターや体育館やグラウンドの活用。外出活動や買い物など、施設外でのプログラムを積極的に取り入れることで、室内の混雑を軽減します。
3	個別支援時間の不足	事業所内での活動時間の配分において、集団活動が多く、個別支援の時間が少なくなる日がある。特に、学校登校日は個別対応の余裕がなくなる場合がある。	事業所内での活動時間の配分を見直し、集団活動と個別対応をバランスよく取り入れるようにしています。個別支援が十分に行えるように、職員の増員やシフト調整を行い、個別対応に十分な時間を確保できるようにします。